HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	国民社会の研究 第14巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1961-12-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77622
Type	manuscript
Note	『鈴木榮太郎著作集 7（国民社会学原理ノート）』を出版した際のソースとなった原稿である（同書内での言及による）。
File Information	I017_0114.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

14

HANKYU

MA3

NOTE BOOK

國民社會の研究

第十四卷

昭和三十七年六月二十九日

KYOYEI

14

統治文化の特徴
書経と統治文化

「口民」の特徴について
統治者の資質
我統政治の特徴

南方民の政治史

パーソンズの要件制の強弱
宣撫の不屈の力
口民の特徴
口民と口民外の
別民と民族の別
口家の州口民と口民外
口民と民族の別
ミミミミ
口民と民族の関係

24 292120 19 18141310 81

統治文化の体系

奈良の都を造成するのには大変な苦労であったであろうが、一世紀もたぬ間に京都に都を定める現由は簡単なものではなかったであろう。しかしそれが移動国体の移都には先国体が移ったと移ったとは奈良廣宮像はそのまま京都宮像となってつづいたであろう。

京都では平安宮が平安廣宮像に移ったのは容易ならぬ重作を伴ったであろう。

京都武門宮像と鎌倉武門宮像との間の行政の移譲はどんな学術

安堵を保ったか。

鎌倉武家官僚と京都武家官僚との間の行政の移行は如何。

京都室町官僚と世襲官僚との統治組織、委任の統治組織等の間における統治文化の移行の次第。

次に委任の統治組織は江戸幕府の統治組織にどんな影響を与えたか。

以前あれば江戸幕府官僚は明治政府官僚にいたるまでいかか。

室町政府の力量と伝統の統一

た業中はつまり天皇に即ち政権の
座が中は空白になっていたはずであって
が、その時は天下麻のごく乱れ人は
この時代を戦国の時代と呼んでいる。
旧政権の力が衰えていると云っていたるくても
新らしくより強い政権が形成されて
旧政権を駆逐した場合には
天下に政権の空白が存在したのではな
いと云うのは世が乱れるとよく
心配云云。天下を統一する強い政
権が存在している時は世は安定であって
無政であって世は暗黒にはなら

るはずの。統一政権が空白になれば直ちに世は戦乱暗黒の時代となる。事実、この政権の引きつぎの時の幕を見て来れば直ちに濃厚となる。

民は世が乱れ平安でなくなれば誠に寂しいのであるから、民は西朝王の出現を待望の所に思いたいとの事は、いつの世にもあったのであろう。民は政治に対するを厳しく配されるのを本質的に希望しているのである。

まつりごとをつかさどるものは、ひとりとして
必ずしもかれらのようにふんで統治者の治下にいて安堵しないことのないように
思わせるものがない。
だから統治者もまたふんで過ぎるのを
心配する。人は皆同じく人である
ものから、人に心配させることを誠
に希望するかを一度考えるべきか。
世の乱れるのは必ずしも悪政
であるからではない。統治者の心配はよ
ろこんで甚だしくのが常であるから。思い
空腹同然にして明らかにしないものは

いしのつ明せきをなさつのである。
天下に主たる人は一族の中にて主位にみち
一村の中に主位、一郡一国に主位
ありて天下に主位となるので、平民一
人ゝの力のひゝきは比較にならぬのである。天下に主たる人は平民から一段に
主になるものはない。
主たる人が強くに如何すれば主位
の空白時はないと思はれる。空白
に乗ずる国民は甚だおそれ、主位
が空白になることを国民は甚だしく
不安に思ふから、主位決定に

中絶されるようなことがあってはならない。
日本の制度上、家族の関係は、この場合
すべて、あるのであろう。
王位が空白になれば、その隙
があれば、様々の悪をなすものが
出る。
現世はたちまち混乱する。
人々は何分しくも別れ
で経験したのであろう。
結局文化は中絶すべきではなかった
のである。

「書經」と統治文化

書經は古代の王道を述べた古典。
東洋における統治文化の源流形成に大きな力となったことは疑いない。支那の歴史の治績責任者の記録である。後世に及ぼした影響はもっとも大きい。特にその政の一節洪範は周の武王が定めた殷の三仁の一人箕子を訪ねて天下を治める道を問うたのに答えて道を説いたのがこの洪範の一篇の内容である。書経を貫く精神は徳による政治を説いている。
徳による政治は天下を安泰にする条件をつくり天下を安泰にするとのべている。

書紀かぶ記には用の日本の古代の統治者にとった影響をいかが不明だが

日本はおけい統治者は始めからこんな
報道に耳をかたむけて居たのであろう。
治山治水の道、人の和の道なども
道こそ天下を平和にする事を報ずる
べし。
去年の
書類を読めば東洋の王道の存在
を知ることが出来る。
三七、七、一八。

国民政府の研究についての要旨
華北聯合大学での研究発表の要旨

私は今、国民政府機関に於ける国民政府の研究を進めている。
この発表は研究の途中であり、一中間報告である。此研究の最終の結論を見る迄には尚年月を要する。
であるが、既に研究した部分についてもある。
あるのは、国民政府の統治機構に関する私の研究の成果、本研究に於いて科学的
本研究に於いて研究の方針、判断
関する科学的根本下に決定している
ものである。
統治形態を科学的に一般に具体的に
と称する。統治機構の
されている主権と統治構造の規定。

この発表は私が今日迄に進めて来た国民政府の
研究の中間報告である。
この研究は、中央集権を重点とするものである
つかむ際には統一的である
本研究は行政機構の機能を、本研究者は
おいて批判と解釈を、判断する
学的体系として法則的に整理してあるもの
もある。普及しつゝある問題を解決し
して来た。　主手段によるもの
未来への作用を説明し、政府を理解し
事情を説明し明らかにする事を希望する。

現代社会機構の新しい一つの国家の独裁
人間は何かの形で統治は一日も欠くべ
からざるものである。言葉を変えれば法律
事実上法律である。天皇の陛下でも統治は人に
統治されなければ武力は欠くべからざる
来るものとみるか
統治は民族的自覚は本当か
民主制でも民主制でも同統治が
人間は奥の文化であるべきは
外の民族意識である。又統治が
力を要するものであるから
強制的に法律的に
国家同盟
生産と生活機関
の発展か。

統治機構は「生活機構」「文化集団」
「生産機構」「生活機構」「文化集団」
「生産と生活機関」
である。

現代社会機構の新しい一つの国家の独裁
人間は何かの形で統治は一日も欠くべ
からざるものである。言葉を変えれば法律
事実上法律である。天皇の陛下でも統治は人に統治
されなければ武力は欠くべからざる
来るものとみるか
統治は民族的自覚は本当か
民主制でも民主制でも同統治が
人間は奥の文化であるべきは
外の民族意識である。又統治が
力を要するものであるから
強制的に法律的に
国家同盟
生産と生活機関
である。

移作の色々

一、日民労の活動精進の提唱

二、交流の環状線路線の提唱

国表

労働者は日民労に参加し、国家要職を担うのは全の実践利益としての絶対必要である。

九月十日

一　反乱の方なす国民に対して行う政治、

二　王者は武力によって秩序を保つ者か

三　絶対権力の座について自分の位人の満足に満ち足りている者、王者は

かくのごとき王者が考える生活面

王者の道

生産の道

武力による平定の情態にまで進ぐ

政治の準備段階に必ず出撃

武力による反乱の憂いが強くなる

から政治が始まる。軍政は政治ではない。政治は永久の発展を目指す。

現状の両生産又は発展的両生産を

予想するものである。

政治の実践

一　治山治水（自然生産）（人の利益生産）

（以上農業政策の根元）

二　殖産興業（農業による生産）（国民の生産）

三　交流通商（商業による生産）（国民の生産）

四　治安の道、兵力の維持

五　外患及び政防兵力

九月九日

統治なき社会

絶滅戦争は外地に引揚げようとする
期待には果たして内地に帰れない
日本の統治下にはあったのだから、
居住移転の自由
統治する力を持つ
統治なき日本の政治に
秩序を
ようやく少数ずつ、私達は自力で
安の国に自力で出来ずつ
なければ
なかった。

日の体験からは私達自分で自分の生
活を守るすべの如何に不安定
であるかを体験した。
武器をかくしていないかどうかを調べる
引揚船人の青年達が数人が乗り
14

になって書いて祖父の家の内心ずかしい家の
内陽なくさかしまわるようなさいおい
学者は陽
ていた朝鮮人の心理なんか
ら、朝鮮人の[illegible]が気質さのい
ちつく島がなかった。日本の陽が強く
をいすあけようとするのを知って時敵心
弱さを感じた。
保護をうけようとする日本に時居ない
当の日本が優位で陽であるのを
切に感じた。
日陽的に日民を保護するが日本
の機能の一つであるのは明らかである。
15

それと同様に国内生活における暴力やテロ
に対する国民を保護することも国家
の使命即機能の一つであるが、それは
国民が国家に期待することである。
生活の安定のために法的制度を作り
やすい事の安定のために交流の道
を拓くことや生産や生活の発展を
計ることは国民の利益となるから
である。
国家の存在は国民がおかれている
ことを思わしめる事である。一方で
国家が生活にたえず大いなる国民は

□はくの言葉はいつもあいまいだった。

□はさいきんなぜか□はいっぱいあって

のうさぎは□はどうしてもあいまいだった。

明治政府の事務政府の組織内容
紀「黒人の移住」問題の所有権の
制度の特質、対外関係の機構の機構
開の対象は
天下を治める為の三位の一人
天下を治める道を問う。
それに答えて孟子が述べたのが書経中の
洪範の一篇の内容である。
天下を治める道を
九つ條に分けて説いている。王道とは
強が用いられている。
要は徳政をつくして民になりそくさして
天下を義にする道である
(覇王道)

18

政治の政道

政治は兵力によって天下を掌握
した政治とはどこが違うか。旧政府の
機構に移る。一つの時代の政治は
旧政府の機構を踏襲しながら
なっているから、
古代の政治の陳腐な旧政府ではなく
唐の政治に学ぶ。
鎌倉幕府の政治、室町の政治
徳川の政治、明治政府の政治
における旧政府は如何に関係
か。

南原氏の政治政治史

氏は本書で西洋の政治政治史と東洋の政治政治が合流しようとしていることを強調している。日本の政治政治は今日においても中国の古代の政治政治が影響されていることである。中国古代の政治政治史をふまえ、これからの日本の政治の方向の政治は国民である。

パーソンズの社会統制の理論

財産とは目標所与目的と知的な制度の相同的な機能によって法的構造の内容を規定しようとする構造の内容を規定しようとする人々はパーソンズによって補足されている。

日常の事実の前に日常の事実をも予知するマキャベリの先へも見落として

ほぼ終了

第50回 法学研究 制の機能 序説

第12章 全人的支配の社会主義

P.123

宣伝の不屈の力

マクス、全人的の支配の社会の内で最も威嚇的なものは宣伝に対して如何なる抵抗力も有効なる者の存在を認めない。

組織的に抗争する。

宣伝制かず的部門組織化なる。

秘密警察。中央宣伝の力は一人の手中に集中する。その一人は首相。

首相は政党色に代る。

政治的に地位は矢の様に統一する中心

所謂中心は宣伝圏以外にはない。

21

建築構造とは何か、
建築構造とは建築がマートンの用語
によって一般に決定されたなら、
私はこの語を用いないで他用語
を探さうと思ってゐる。
都市の建築的活動の支柱をなし
たり得るものは世帯と職場
とあるが命脈は厚生的に地域
的に多様な地域の花は今
咲いてゐる。この頃は誠に豊富
に傳ないと思ふが、これを都市の
新構造とおもへばコートンの演
よれば正しくない。故に私は

29

また都市の機構造とは、まさに
で、都市社会の基本的機構造と
呼ぶことにする。
マートンの機構造の考へによって
進展してゆくであらうこの都市社
会機構造の動きをいろいろの人々と
モサクしているのか。

「が格別の口家自体の界」（口民社会の編
定者諸和四学 通巻第十八巻）の
口家自体の界へとこで界家すす
であるのこでは自家自体とその構
関とされている。

口民の立場を中心として考へると
口民学は主体者共同関係で
あり、土地共同関係である。
土地を共同して占有しつゝ人口が
共同の生活者生産者として
口家と私有

（社会）
口民と口家の別、口民と口民社会の別、
口民社会と民族の別、口民社会とコミュニティ、
口民社会と社会と
口家は口民社会の上にあるアソシエーション
の一つである。但し口民社会は家全口家の上にある。
口民は口家との関係にあり人口の一
関の義務である。口民は口家と関係のない
多くの測和接しつゝ。
民族は口民の一部である場合あり、二つ以
上の口民を含む場合あり。一つの民族
は一つの口民の跟迹であると見られる。
コミュニティは共同体としての地域社会

社会体系は
口民学は土地共有関係である
口民学は口家共同関係である。